

Suzuka Municipal Museum of Archaeology

速報展

発掘された鈴鹿2001



2002.3/21[Thu.]~6/30[Sun.]



鈴鹿市考古博物館
Suzuka Municipal Museum of Archaeology

目次

1. 一反通遺跡 (4次)…………… 1
2. 白鳥中学校遺跡…………… 2
3. 宮ノ前遺跡…………… 3
4. 八重垣神社遺跡 (1次)…………… 3
5. 天王遺跡 (7次)…………… 4
6. 伊勢国分寺跡 (25次) …… 5
7. 国分西遺跡 (26次) …… 7
8. 中瀬古南遺跡…………… 8
9. 天王遺跡 (8次)…………… 8
10. 長者屋敷遺跡 (13次・伊勢国府跡)…… 9
11. 八重垣神社遺跡 (2次)…………… 11
12. 国分東遺跡 (3次)…………… 11

1. 一反通遺跡 (4次) 上野町字壱反通

1月12日~24日 54㎡ 個人住宅

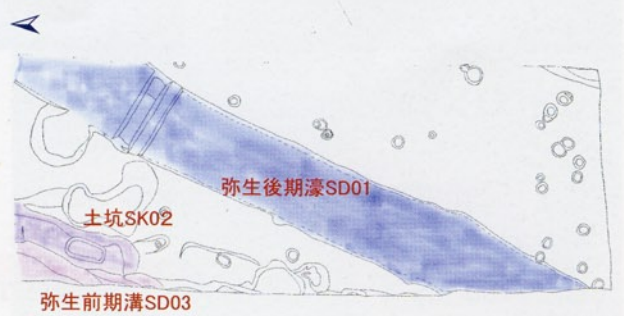
鈴鹿川左岸の台地上に位置する弥生時代前期から後期までの遺跡で、鈴鹿川流域を代表する弥生遺跡のひとつとして知られています。これまでの調査では、弥生中期中葉や後期の濠が検出され、環濠集落であったと考えられています。第1次調査で出土した突線紐式銅鐸片・銅鐸形土製品などの銅鐸祭祀に関わる遺物の他、表面採集された碧玉片・水晶片・玉末製品・筋砥石などの玉作関係遺物などの存在は、当遺跡が近隣に例を見ない中核的な弥生集落であったことを示します。

今回の調査は、個人住宅建設に伴い実施されたものです。検出された遺構のうち、建設の影響を受ける部分についてのみ記録保存を行い、遺構深部など地下保存が可能なものは対象外としました。

調査の結果、弥生前期の埋没が考えられる溝SD03・後期の土坑SK02・後期の濠SD01などが見つかりました。溝SD03は、調査区の北西で一部分のみ検出されたもので、土坑の可能性もあります。土坑SK02は溝SD03を切って掘られた豎



全景



遺構配置図



弥生土器壺



弥生土器壺



弥生土器壺



弥生土器壺



弥生土器壺

穴状の土坑です。濠SD01は長さ約12mにわたって見つかったもので、環濠の一部と思われます。幅1.5m・深さ40cmで、うち深さ10cmほどについて掘削しました。



弥生土器壺・甕



弥生土器高坏



石斧



筋砥石

遺物には弥生前期新段階から中・後期までの土器、石斧、筋砥石があります。SD03やSK02から出土した土器類にはヘラガキ沈線文で飾られ

た遠賀川式の系譜をひくものや東海東部の条痕文系の土器があります。SD01からは、深さわずか10cmの中から大量に廃棄された土器が見つかり、壺・台付壺・甕・台付甕・高坏・器台などがありました。同時期の濠は第1次調査でも確認されており、一連のものである可能性があります。

弥生時代の早い時期におけるヒトとモノの交流を考える上で、また環濠集落の盛衰を知る上で貴重なデータが得られました。

2. 白鳥中学校遺跡 加佐登三丁目

4月13日～5月28日 460㎡ 学校

鈴鹿川左岸の見晴らしの良い台地上に位置する遺跡です。かつて白鳥中学校の校庭には加佐登6号墳（加佐登王塚）がありました。昭和38年校舎増築に伴って発掘調査が行われ、すでに半壊状態であったこの古墳は消滅してしまいました。付近にはその他に1～4・7～12号墳が現存し、県道神戸長沢線沿いの2・3号墳はそれぞれ宝冠塚・宝装塚と呼ばれ、地元の方々によって除草管理

がなされています。加佐登神社にある県指定史跡白鳥塚1号墳とともに日本武尊の伝説に関わる古墳群です。

今回の調査は、体育館の建設に伴い実施されました。調査の結果、中世の溝や柱穴が見つかり、土師器羽釜・須恵器・山茶碗などが出土しました。遺構や遺物の残りは悪く、古墳群に関するような遺構は見つかりませんでした。



調査区(南西から)



調査区(南から)

3. 宮ノ前遺跡 十宮町字宮ノ前※

1月15日～3月14日 970㎡ 農業基盤整備

写真は三重県埋蔵文化財センター提供

十宮町の西を流れる小河川沿いの自然堤防上に形成された遺跡です。時期は古墳前期から中世に及びます。

調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居・溝・旧河道、古墳後期の土坑、中世の旧河道が見つかりました。竪穴住居は5棟以上認められ、溝からは土師器がまとめて出土しました。土坑は6基あり、炭化物や土器を含みます。うち1基からは須恵器をお供えた馬の下顎骨が出土しました。中世の旧河道は現在地表に残る地割によく対応しており、現在の河川の流れが中世以降に固定化されていく様子が想像できます。

まとめて出土した土師器には台付甕・鉢・甑・壺・高坏などがあり、質・量ともに充実した資料が得られました。



調査区



土師器出土状況



馬下顎骨出土状況

4. 八重垣神社遺跡 (1次) 十宮町字宮ノ前※

1月26日～3月14日 1130㎡ 農業基盤整備

写真は三重県埋蔵文化財センター提供

宮ノ前遺跡の北に隣接する遺跡で、立地条件や内容もほぼ同等な一連の遺跡とみなすことができます。

調査の結果、古墳時代前期の旧河道、古墳時代後期の土坑、奈良時代の掘立柱建物、中世の

旧河道が見つかりました。古墳前期の旧河道からは土師器がまとめて出土し、奈良時代の掘立柱建物は2棟確認されました。土坑は2基あり、宮ノ前遺跡同様、内部に炭化物や土器を含むものです。中世の旧河道は宮ノ前遺跡から続くも

ので、やはり地表の畦畔に沿います。



土器出土状況



掘立柱建物

5. 天王遺跡 (7次) 岸岡町字天王

5月15日～6月19日 171.5㎡ 病院

当遺跡は沖積低地に面した低位段丘上に位置する遺跡で、遺跡の北を流れる金沢川の河口から約1.2km離れます。近隣の岸岡山丘陵を中心に、岸岡山古墳群や岸岡山窯跡群が分布し、西に隣接する天王屋敷遺跡は白鳳寺院であると考えられています。遺跡の大部分は鈴鹿厚生病院の敷地や住宅地になっています。

これまでの調査では、古墳後期に遡る幅約5mの大溝や7～8世紀の竪穴住居や掘立柱建物が多く検出されています。掘立柱建物には同一場所で建て替えられた、「コ」状に配置されるものがあり、有力者の居宅や官衙の一種ではないかと考えられています。

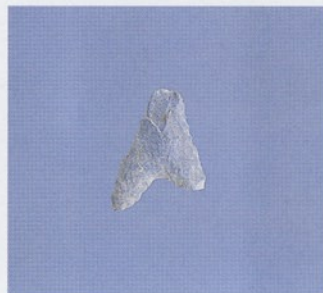
出土遺物には近隣で生産されたと思われる須



作業風景 (北東から)



掘立柱建物 (東から)



石鏃



全景 (北東から)

恵器や瓦があり、かつて新羅土器が採集されたこともあります。この地域の中核的な集落であったと同時に、水上交通を利用した物流の拠点であった可能性があります。

今回の調査は病院施設の建設に伴うもので、同病院内では3回目の調査になりました。調査の結果、7～8世紀の掘立柱建物が4棟と掘立柱列が1列検出されました。

掘立柱建物には側柱建物と総柱建物があり、後者は倉庫と考えられます。柱を埋めた穴の切り合い関係と建物方向の違いにより、3時期の変遷がとらえられました。後世の攪乱が多く、しかも非常に限られた調査区ではありましたが、遺構密度は高く、これまでの調査同様、地域の中心的な遺跡にふさわしい成果が得られました。

遺物は、6世紀末から8世紀頃までの土師器・須恵器片が中心で、その他縄文時代の石鏃が1点出土しました。



掘立柱建物 (北から)

6. 伊勢国分寺跡 (25次) 国分町字堂跡

5月14日～継続 1100㎡ 学術調査

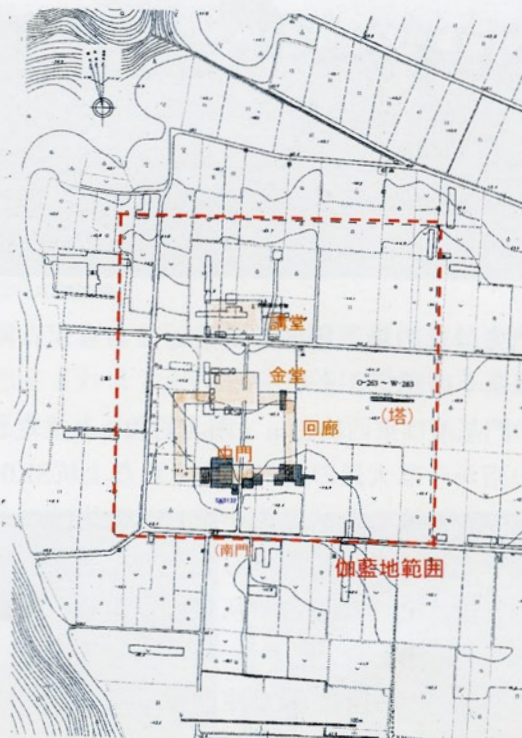
国史跡伊勢国分寺跡は、昭和63年から3か年に及ぶ範囲確認調査で築地塀に囲まれた伽藍地が一辺約180mであることがわかっています。この史跡指定地は僧寺と考えられ、その500m東の宅地密集地に尼寺があると想定されています。史跡の南から東にかけては博物館建設に関係して調査が行われ、寺院地を画すると思われる溝や国分寺建立以前の建物跡が多く見つかりました。尼寺では北辺を画すると思われる溝や掘立柱列が見つかりました。



全景

今回は、周辺を含む国分寺関連遺跡群としては昭和63年度以来通算25回目、伽藍地内では平成11年度以来3年目の調査となりました。

平成11年度は講堂 (SB9906) を、平成12年度は金堂 (SB0003) を中心に位置及び規模の確認が行われました。講堂では、基壇の一部とその地下部分にあたる基礎地形の範囲が確かめられ、東西約33m・南北約21mの基壇が想定されました。金堂では、東西約28m、南北約23mの基壇が想定され、東・西・南辺部を約1m減ずる大規模な



調査区配置図

改修の痕跡も確認されました。講堂・金堂ともにその周囲には瓦が埋められた溝があります。基壇を形成するための資材調達と改修時の廃材・残土処理を兼ねた遺構で、場所によっては何時期かのものが重複しています。

今回はさらに金堂の南において調査を実施し、中門 (SB0101) と中門から金堂につながる回廊 (SC0102・0114) が確認されました。中門・回廊の基壇や礎石の痕跡は全く失われていますが、基礎地形や基壇周囲に掘られた溝の確認により、おおよその基壇規模が明らかとなりました。基礎地形は、瓦葺礎石建物直下に施される地盤改良で、地上部分の基壇と同様、異なる土砂を交互に叩き締めた版築工法により行われます。講堂や金堂では数cm単位の版築が認められましたが、



中門・回廊 (東から)



作業風景



軒丸瓦出土状況 (東から)



現地説明会(北西から)

中門ではその最下層部しか残っておらず、回廊では全く確認できませんでした。

中門基壇は東西約19m・南北約12mと推定され、その南からは大量の瓦が埋められた土坑SK0132が見つかりました。この土坑は、改修時における廃材処理のために設けられた穴と考えられ、同時に出土した須恵器や灰釉陶器から、平安時代前半のものと考えられます。

西回廊(SC0102)及び東回廊(SC0114)では、基壇や礎石の痕跡が全く確認されませんでした。その内外に掘られた溝の検出により、回廊の位置と規模が想定できました。回廊基壇はおそらく中門・金堂と比べ低く、基礎地形も軽易なものであったか、ほとんど施されていなかったのかもしれませんが。回廊内外の溝埋土は上下2層に大別され、上層は雨落ち溝、下層は土砂採取と廃材・残土処理によるものでしょう。溝に挟ま

れた回廊基底の幅は南面で7.2~7.5m、東面6mほどで、全体では東西68m・南北51mです。

出土した軒瓦は軒丸瓦がⅡA03・ⅡA04・ⅠA09、軒平瓦がⅡB01・ⅠA06型式です。ちなみに講堂では軒丸瓦ⅡA02・軒平瓦ⅡB02が主体を占め、金堂は中門とよく似た組み合わせが想定されます。軒丸瓦ⅠA09は重圈文、軒平瓦ⅠA06は重廓文で、本来は国府用の瓦です。同じく国府で多く出土する文字押印瓦も1点出土しています。平瓦の凸面に「申」と読める文字が押印されています。

今回までの調査で、講堂・金堂・回廊の配置と規模が明らかになりました。これらの南北中軸線は、伽藍地の西に偏り、塔は金堂東に想定できそうです。今のところ、遠江や陸奥の僧寺に似た伽藍配置が想定できます。塔推定地については今回一部調査を試みましたが、詳しくは次年度以降の課題としました。

その他、飛鳥時代から奈良時代前半にかけてのものと思われる竪穴住居が検出され、弥生時代の石斧も出土しています。



磨製石斧



文字押印平瓦



軒丸瓦ⅠA03



軒丸瓦ⅠA03



軒平瓦ⅡB01



軒丸瓦ⅠA04



軒丸瓦ⅠA09



軒平瓦ⅠA06

7. 国分西遺跡 (26次) 国分町字西浦

7月3日~4日 16㎡ 個人住宅

国分西遺跡は、国分尼寺跡の西辺付近にあたりと考えられています。6次調査では大規模な瓦廃棄土坑が見つかり、主として国分尼寺に関係すると思われる軒瓦・鬼瓦・文字瓦が出土しました。

今回の調査では、土坑・溝が検出されました。土坑には、軒丸瓦・軒平瓦・文字押印瓦を含む大量の瓦が含まれており、廃材処理用の土坑と考えられます。

軒丸瓦にはⅡC02、軒平瓦にはⅡB06・ⅡB09

などがあり、文字押印瓦には「百」・「上」などがあります。軒丸瓦ⅡC02や軒平瓦ⅡB06・ⅡB09はこれまでの調査結果からも尼寺専用の瓦と考えられているものです。文字押印瓦は、国府跡(長者屋敷遺跡)で20数種類が見つっていますが、「百」はこれまで出土例がありませんでした。

調査地点は、尼寺伽藍地の西辺付近にあたりと想定されますが、直接寺院に関連する遺構は発見されませんでした。



調査区全景(東から)



調査区全景



軒丸瓦ⅡC02



軒平瓦ⅡB06?



軒平瓦ⅡB06



軒平瓦ⅡB06



軒平瓦ⅡB09



文字押印丸瓦「百」



文字押印丸瓦



文字押印丸瓦「上」

8. 中瀬古南遺跡 中瀬古町字西ノ口

10月11日～19日 90㎡ 住宅兼事務所

中ノ川右岸の台地上に位置する遺跡です。付近一帯は郡山遺跡群として知られ、古墳時代から古代にかけての集落跡を中心に多くの遺構・遺物が検出されています。旧奄藝郡内でも中心的な地域のひとつであったと考えられ、近在の

徳居窯跡群は伊勢湾西岸地域を代表する須恵器生産地でした。

調査の結果、古墳時代の掘立柱建物・溝、中世以降のものと思われる溝が検出されました。遺物は、古墳前期の土師器が中心で、6世紀後半

頃の須恵器がごく少量出土しました。2基の掘立柱建物は、時期がはっきりしませんが、うち1棟は古墳前期の溝より新しいことがわかっています。



作業風景(南西から)



掘立柱建物(北から)

9. 天王遺跡(8次) 岸岡町字天王

10月31日～継続 1287㎡ 病院

7次調査に引き続き、鈴鹿厚生病院内の調査です。竪穴住居・掘立柱建物・溝などが検出されています。遺物は溝を中心として出土し、弥生土器、水晶片、土師器皿・台付甕・甕、須恵器杯・高坏・小壺・甕、製塩土器、土錘、瓦などがあります。

大溝とほぼ同時期と云えるでしょう。溝の掘削時期に近いと思われる下層にも、遺物が少量含まれています。S字状口縁を持つ古墳時代前期の土師器や弥生時代後期の土器が出土しています。これらが掘削年代を示しているとするれば、古い時代の溝に沿って古墳後期に溝が掘削されたということになります。

この溝はのちの時代にも踏襲され、やや南にずれた位置に溝が再掘削されます。この上層からは7世紀末から8世紀初頭頃の須恵器や10～11世紀の灰釉陶器が出土しており、古代末の埋没が考えられます。さらに南にずれた位置には最上層に位置する鎌倉時代の溝が掘削されています。



作業風景(西から)

竪穴住居は7世紀後半のもので、掘立柱建物も7世紀代のもと考えられます。

東西方向の大溝は、幅2.5mほどの溝が重複し、大きく4時期の変遷が考えられます。溝が最も安定する中層は、6世紀末から7世紀初頭を中心とする古墳後期から末までのもので、遺物も豊富に含まれています。過去に別地点で検出された



溝(北東から)

これらの各時期の溝は過去に調査された大溝より規模が小さく、やや形状も異なります。中層は、有機質の粘土質シルト層が多いことから穏やかな堆積環境にあったものと推察できる一方、

上層・最上層は砂や細礫が多く、比較的短期間に埋まったことが考えられます。いずれも排水や区画を兼ねた溝と考えられます。



土師器S状口縁台付甕



須恵器坏・高坏・壺・蓋



土師器甕・皿・須恵器甃・灰釉碗・重弧文軒平瓦



土鍾

10. 長者屋敷遺跡 (13次) - 伊勢国府跡 - 広瀬町字中起

9月20日～継続 660㎡ 学術調査

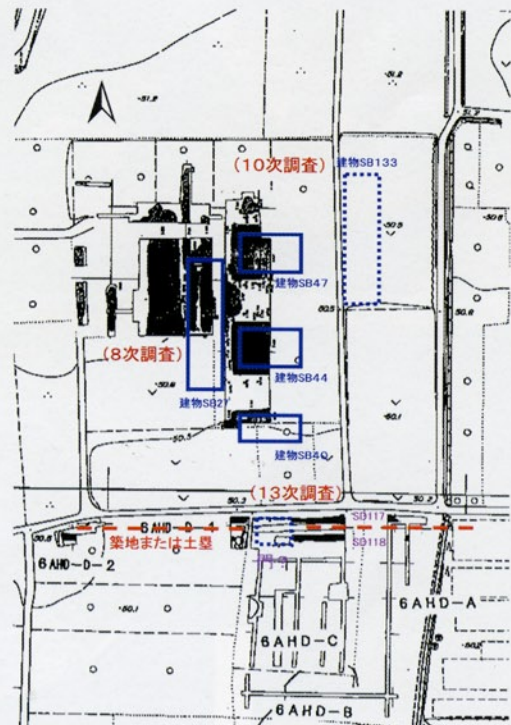
南北800m・東西600mに及ぶと見られる国府域のうち、これまでは、瓦が多く分布する3地点を中心に調査が行われてきました。

遺跡の南端に位置する矢下地区は、国府における中心的な政務と儀式の場である政庁跡で、瓦葺礎石建物の基壇が1mほどの高まりとして残っています。政庁の北東約300mに位置する南野地区や北北東300mに位置する長塚地区では、政庁に匹敵するような大型の建物群が見つかりました。長塚地区ではこれまでの調査で5棟の

建物が確認され、落下状況を示す瓦が大量に見つかっています。



作業風景(北東から)



調査区位置図

また、遺跡北東部における三重県埋蔵文化財センターの緊急調査では、南北及び東西方向の溝が多数検出され、1区画120m四方の方格地割が国府の街路区画として存在することが指摘されました。その規模は東西5区画・南北6区画に及ぶと想定されています。

今回の調査は、長塚地区で発見された建物群



全景(南東から)

の南辺部と推定される場所で実施しました。調査の結果東西方向の溝が平行し



遮蔽施設に伴う溝SD117・118(東から、中央は後世の溝)



SD118瓦出土状況(北から)

て2条見つかりました。築地または土塁などの遮蔽施設に伴う溝と考えられます。溝の幅は北側のSD117が2.1m、南側のSD118が1.4~1.6mで、両方の溝に挟まれる遮蔽施設基底部の幅は内法で3.4~3.7mです。これら2条の溝は約12mにわたって途切れています。この途切れ部分は出入口と考えられ、おそらく門のような建物があったのでしょうか。建物の存在を直接示す柱の痕跡は無く、地面を掘り返して叩き締めた基礎地形の痕跡もはっきりしませんでした。北側の建物群への正門として機能していたものと推定されます。この途切れ部分から60mほど西の部分が遮蔽施設の南西角にあたると思われる、南側の溝が曲がりながら途切れているのが確認できました。

今回の調査により、長塚地区の建物群がおおよそ120m四方の遮蔽施設に囲まれていたという見通しが得られました。その位置はかつて推定された方格地割に一致するようです。最近の調査でその施工範囲については再考がせまられており、政庁を含む計画街路の存在は疑問視されています。実態としては、政庁域の北に追加する形で東西4区画・南北2区画程度の範囲内に国衙関連施設が計画的に配置されていたと考えるのが妥当でしょう。

ところで今回の調査区を含む長塚地区の建物群はどのような性格を持つ施設なのでしょう。瓦葺礎石建物からなる大型建物から構成され、政庁では未発見の鬼瓦も出土したことがあります。国府には、政庁以外に厨(給食施設)・国司館(国から派遣された国司の館)・曹司(実務機関)・工房などがあつたとされますが、実際に確かめられた例は限られます。長塚地区の建物は、



打製石斧



軒丸瓦IA08



軒丸瓦



軒平瓦



文字押印丸瓦「上」



文字押印丸瓦



文字押印丸瓦「上」



文字押印丸瓦

政庁に匹敵する格式の高い施設であることは確実で、例えば国司館である可能性が考えられますが、掘立柱建物のような居住施設がみあたらず、大いに疑問があります。

11. 八重垣神社遺跡 (2次) 十宮町字宮ノ前※

11月8日～継続 1150㎡ 農業基盤整備

第1次調査に引き続き、実施されました。古墳前期を中心に竪穴住居・土坑・流路などが検出され、壺・甕・高坏・鉢などの土師器や鋤・又鋤・横槌などの木製農具が出土しました。竪穴住居は重なりながら10棟ほど見つかっています。当時この周辺は小河川が数多く流れ、自然堤防状の微高地が居住地として利用されていたようです。



作業風景



作業風景

12. 国分東遺跡 (3次) 国分町字東浦※

12月3日～継続 1000㎡ 道路建設

鈴鹿川左岸の台地上に位置し、付近には国分尼寺跡である国分遺跡や全長約50mの前方後円墳(1号墳)を含む富士山古墳群があります。調査された遺跡には、弥生中期の竪穴住居や方形周溝墓が多数見つかった中尾山遺跡、弥生中・後期の竪穴住居が見つかった沖ノ坂遺跡、全長21mの前方後円墳である富士山10号墳などがあります。国分東遺跡は過去に2回調査が行われ、古代・中世の掘立柱建物が検出されています。

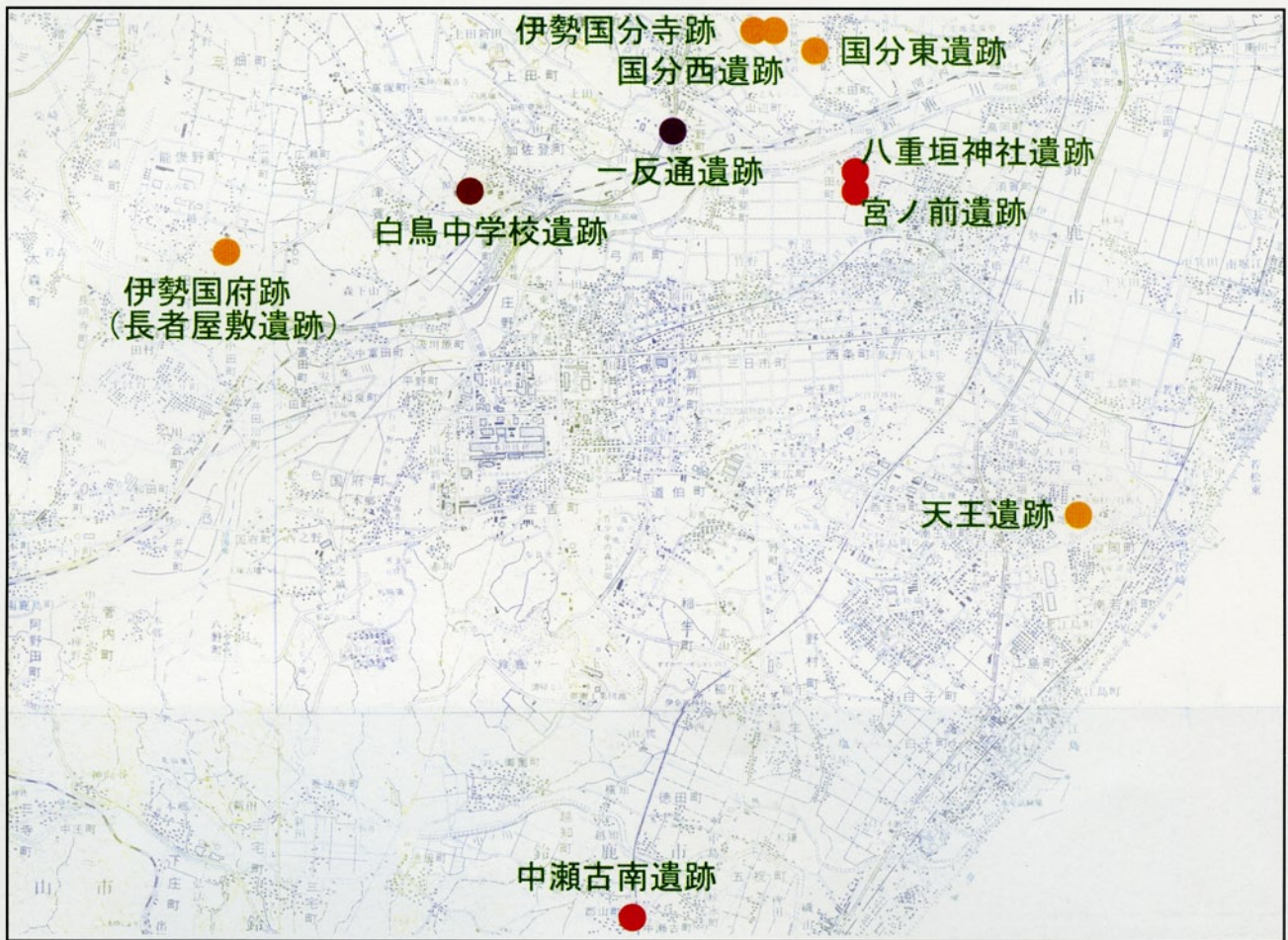
今回の調査は第1次調査と同じく県道工事に伴うものです。調査の結果、8世紀の竪穴住居や鎌倉時代の掘立柱建物が検出されました。



全景

展示資料一覽

No.	資料名	遺跡名	所在地	器高(長)	時期
1	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	-127	弥生前期
2	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	破片	弥生前期
3	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	-124	弥生前期
4	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	破片	弥生前期
5	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	破片	弥生前期
6	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	-80	弥生前期
7	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	破片	弥生前期
8	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	破片	弥生前期
9	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	破片	弥生前期
10	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	破片	弥生前期
11	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	破片	弥生前期
12	弥生土器壺?	一反通遺跡	上野町字壺反通	破片	弥生前期
13	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	破片	弥生前期
14	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	破片	弥生前期
15	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	破片	弥生前期
16	弥生土器蓋	一反通遺跡	上野町字壺反通	33	弥生前期
17	弥生土器蓋	一反通遺跡	上野町字壺反通	21	弥生前期
18	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	292	弥生前期
19	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	267	弥生後期
20	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	255	弥生後期
21	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	191	弥生後期
22	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	187	弥生後期
23	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	179	弥生後期
24	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	148	弥生後期
25	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	-119	弥生後期
26	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	-105	弥生後期
27	弥生土器脚付壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	188	弥生後期
28	弥生土器脚付壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	-181	弥生後期
29	弥生土器壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	125	弥生後期
30	弥生土器台付壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	338	弥生後期
31	弥生土器台付壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	282	弥生後期
32	弥生土器台付壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	-235	弥生後期
33	弥生土器台付壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	215	弥生後期
34	弥生土器台付壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	208	弥生後期
35	弥生土器台付壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	-145	弥生後期
36	弥生土器台付壺	一反通遺跡	上野町字壺反通	-143	弥生後期
37	弥生土器鉢	一反通遺跡	上野町字壺反通	-110	弥生後期
38	弥生土器高坏	一反通遺跡	上野町字壺反通	246	弥生後期
39	弥生土器高坏	一反通遺跡	上野町字壺反通	233	弥生後期
40	弥生土器高坏	一反通遺跡	上野町字壺反通	-163	弥生後期
41	弥生土器高坏	一反通遺跡	上野町字壺反通	158	弥生後期
42	弥生土器高坏	一反通遺跡	上野町字壺反通	155	弥生後期
43	弥生土器高坏	一反通遺跡	上野町字壺反通	-128	弥生後期
44	弥生土器器台	一反通遺跡	上野町字壺反通	174	弥生後期
45	弥生土器器台	一反通遺跡	上野町字壺反通	145	弥生後期
46	弥生土器器台	一反通遺跡	上野町字壺反通	-138	弥生後期
47	磨製石斧	一反通遺跡	上野町字壺反通	-108	弥生
48	磨製石斧	一反通遺跡	上野町字壺反通	-103	弥生
49	砥石	一反通遺跡	上野町字壺反通	-118	弥生
50	筋砥石	一反通遺跡	上野町字壺反通	-77	弥生
51	丸瓦	白鳥中学校遺跡	加佐登三丁目	-13.3	奈良
52	山茶碗	白鳥中学校遺跡	加佐登三丁目	破片	鎌倉
53	山茶碗	白鳥中学校遺跡	加佐登三丁目	破片	鎌倉
54	白磁碗	白鳥中学校遺跡	加佐登三丁目	破片	鎌倉
55	土師器羽釜	白鳥中学校遺跡	加佐登三丁目	破片	室町
56	常滑壺	白鳥中学校遺跡	加佐登三丁目	破片	室町
57	常滑片口鉢	白鳥中学校遺跡	加佐登三丁目	破片	室町
58	石鏡	天王遺跡(7次)	岸岡町字天王	-18.5	縄文
59	須惠器坏	天王遺跡(7次)	岸岡町字天王	-19	7世紀
60	須惠器坏	天王遺跡(7次)	岸岡町字天王	破片	7世紀
61	須惠器壺	天王遺跡(7次)	岸岡町字天王	破片	7世紀
62	須惠器坏	天王遺跡(7次)	岸岡町字天王	-18	8世紀
63	磨製石斧	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	-32	弥生
64	須惠器坏	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	-35	6世紀
65	土師器壺	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	-6	8世紀初
66	須惠器坏	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	-19	8世紀初
67	須惠器坏	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	-13	8世紀初
68	須惠器平瓶?	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	-75	8世紀初
69	刀子	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	-64	8世紀初
70	須惠器坏蓋	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	-50	8世紀末
71	軒丸瓦	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	-52	8世紀
72	軒丸瓦	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	343	8世紀
73	軒丸瓦	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	-309	8世紀
74	軒丸瓦	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	316	8世紀
75	軒丸瓦	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	8世紀	
76	軒平瓦	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	368	8世紀
77	軒平瓦	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	320	8世紀
78	軒平瓦	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	-316	8世紀
79	軒平瓦	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	-100	8世紀
80	平瓦	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	350	8世紀
81	平瓦	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	345	8世紀
82	文字押印平瓦	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	-127	8世紀
83	埴	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	破片	8世紀
84	埴	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	破片	8世紀
85	灰釉陶器	伊勢国分寺跡(25次)	国分町字堂跡	破片	10世紀
86	軒丸瓦	国分西遺跡(26次)	国分町字西浦	-55	8世紀
87	軒平瓦	国分西遺跡(26次)	国分町字西浦	-125	8世紀
88	軒平瓦	国分西遺跡(26次)	国分町字西浦	-115	8世紀
89	軒平瓦	国分西遺跡(26次)	国分町字西浦	-163	8世紀
90	軒平瓦	国分西遺跡(26次)	国分町字西浦	-145	8世紀
91	丸瓦	国分西遺跡(26次)	国分町字西浦	365	8世紀
92	文字押印丸瓦	国分西遺跡(26次)	国分町字西浦	-319	8世紀
93	文字押印丸瓦	国分西遺跡(26次)	国分町字西浦	-195	8世紀
94	文字押印平瓦	国分西遺跡(26次)	国分町字西浦	-235	8世紀
95	土師器壺	中瀬古南遺跡	中瀬古町字西ノ口	破片	4世紀
96	土師器壺	中瀬古南遺跡	中瀬古町字西ノ口	破片	4世紀
97	土師器壺	中瀬古南遺跡	中瀬古町字西ノ口	破片	4世紀
98	土師器壺	中瀬古南遺跡	中瀬古町字西ノ口	破片	4世紀
99	土師器壺	中瀬古南遺跡	中瀬古町字西ノ口	破片	4世紀
100	土師器鉢	中瀬古南遺跡	中瀬古町字西ノ口	86	4世紀
101	土師器高坏	中瀬古南遺跡	中瀬古町字西ノ口	破片	4世紀
102	土師器高坏	中瀬古南遺跡	中瀬古町字西ノ口	破片	4世紀
103	弥生土器壺	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	破片	弥生後期
104	弥生土器高坏	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-129	弥生後期
105	弥生土器高坏	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-88	弥生後期
106	弥生土器高坏	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-105	弥生後期
107	土師器台付壺	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	205	古墳前期
108	土師器短頸壺	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-79	古墳前期
109	土師器皿	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	20	飛鳥・奈良
110	土師器壺	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-69	古墳後期
111	土師器壺	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-12	飛鳥
112	円筒埴輪	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	破片	古墳後期
113	須惠器坏蓋	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	40	古墳後期
114	須惠器坏蓋	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	45	古墳後期
115	須惠器坏蓋	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	39	古墳後期
116	須惠器蓋	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	36	古墳後期
117	須惠器坏	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	41	古墳後期
118	須惠器坏	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	41	古墳後期
119	須惠器坏	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	30	古墳後期
120	須惠器坏	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	44	古墳後期
121	須惠器坏	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	40	古墳後期
122	須惠器坏	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	46	古墳後期
123	須惠器坏	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	39	飛鳥・奈良
124	須惠器高坏	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	157	古墳後期
125	須惠器壺	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	60	古墳後期
126	須惠器鉢	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-53	飛鳥・奈良
127	灰釉陶器	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-18	平安
128	灰釉碗	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	51	平安
129	山茶碗	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	48	鎌倉
130	製塩土器	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-42	奈良
131	土馬?	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-75	奈良
132	軒平瓦	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-49	飛鳥
133	軒平瓦	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-74	飛鳥
134	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	98	古墳後期
135	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	71	古墳後期
136	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	69	古墳後期
137	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	37	古墳後期
138	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	26	古墳後期
139	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	29	古墳後期
140	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	49	平安
141	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	49	平安
142	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	46	平安
143	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	45	平安
144	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	45	平安
145	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	45	平安
146	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	45	平安
147	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	43	平安
148	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	42	平安
149	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	42	平安
150	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	39	平安
151	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	38	平安
152	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-42	平安
153	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-41	平安
154	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-39	平安
155	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-37	平安
156	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-33	平安
157	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-29	平安
158	土鏡	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-22	平安
159	須惠器坏	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	-70	奈良
160	水晶片	天王遺跡(8次)	岸岡町字天王	破片	弥生
161	打製石斧	長者屋敷遺跡(13次・伊勢国府跡)	広瀬町字中起	-152	縄文
162	須惠器蓋	長者屋敷遺跡(13次・伊勢国府跡)	広瀬町字中起	-22	奈良
163	須惠器平瓶	長者屋敷遺跡(13次・伊勢国府跡)	広瀬町字中起	-94	奈良
164	軒丸瓦	長者屋敷遺跡(13次・伊勢国府跡)	広瀬町字中起	-55	奈良
165	軒丸瓦	長者屋敷遺跡(13次・伊勢国府跡)	広瀬町字中起	-37	奈良
166	軒平瓦	長者屋敷遺跡(13次・伊勢国府跡)	広瀬町字中起	-45	奈良
167	文字押印丸瓦	長者屋敷遺跡(13次・伊勢国府跡)	広瀬町字中起	-129	奈良
168	文字押印丸瓦	長者屋敷遺跡(13次・伊勢国府跡)	広瀬町字中起	-120	奈良
169	文字押印丸瓦	長者屋敷遺跡(13次・伊勢国府跡)	広瀬町字中起	-147	奈良
170	文字押印平瓦	長者屋敷遺跡(13次・伊勢国府跡)	広瀬町字中起	-112	奈良
171	文字押印平瓦	長者屋敷遺跡(13次・伊勢国府跡)	広瀬町字中起	-267	奈良



表紙写真

- 天王遺跡 掘立柱建物
- 長者屋敷遺跡 (伊勢国府跡) 瓦出土状況
- 伊勢国分寺跡 現地説明会
- 八重垣神社遺跡 木製品出土状況
- 伊勢国分寺跡出土軒瓦
- 一反通遺跡 高坏

例 言

1. ※は三重県埋蔵文化財センターが実施した調査である。
2. 見出しは遺跡名・所在地・調査期間・調査面積・調査原因の順に記載した。
3. 写真の提供を受けたものについては明記した。
4. 本書の編集執筆は新田剛が担当した。

今回の展示に際し、三重県埋蔵文化財センターの御協力をいただきました。また、それぞれの調査を実施するにあたっては、事業主体者・地権者をはじめ関係各位の御協力を賜りました。

速報展「発掘された鈴鹿2001」

編集発行 鈴鹿市考古博物館

発行日 平成14年3月21日

印刷 有限会社中村特殊印刷工業

鈴鹿市考古博物館

Suzuka Municipal Museum of Archaeology

〒513-0013 三重県鈴鹿市国分町224番地

TEL.0593-74-1994 FAX.0593-74-0986

E-mail : kokohakubutsukan@city.suzuka.mie.jp

URL [http : //www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/](http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/)